

社会的事象の見方・考え方を働かせ、多角的に考える児童の育成 － 視点を意識した発問と資料提示の工夫を通して－

【教科・領域】 社会 第5学年 工業生産と工業地域

平成30年度 前橋特別研修研究員
前橋市立城南小学校 並木 勝洋

【児童の実態】

○社会的事象の特色を考える際、複数の立場から考えることが苦手である。

【指導上の課題】

○社会的事象の特色について、比較したり、関連付けさせたりしながら考える力を身に付けさせることが苦手である。

【手立て1】 視点を意識した発問の工夫

社会的事象の見方・考え方の視点

位置や空間的な広がり

時期や時間の経過

事象や人々の相互関係

◎見方・考え方を働かせられるように、発問を行った。

位置や空間的な広がり

「どこに、どのようなものが、どのように広がっているか」

発問①「工業のさかんな地域はどのような場所に集まっていますか。工業地域の分布図と他の図とを見くらべながら考えてみよう。」

→より具体的な言葉での発問

事象や人々の相互関係

「なぜ、そこでそのような特色が見られるのか」

発問②「工業のさかんな地域はなぜこのような場所に集まっていますか。その理由を考えてみよう。」

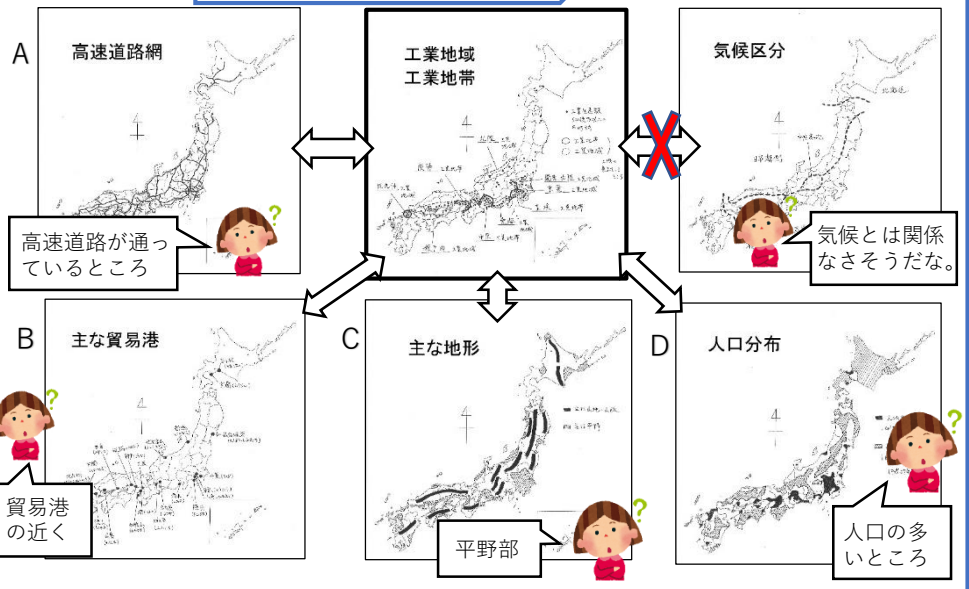
→複数の視点を用いて発問



【手立て2】 資料提示の工夫

◎多角的に考えることができるように、多くの種類の資料を提示した。

位置や空間的な広がり⇒発問①

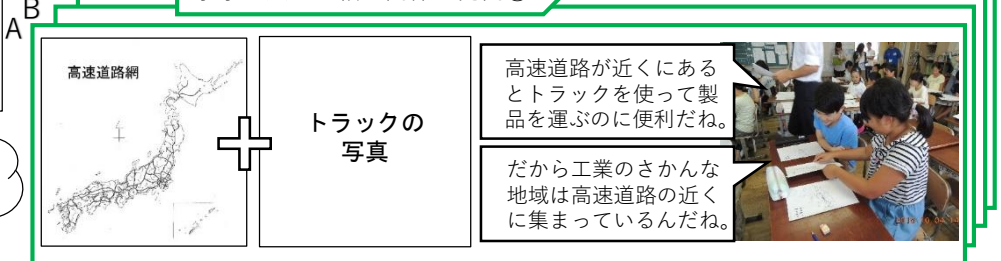


→縮尺をそろえた地図資料の提示 (2枚の図を比較しやすいように)

→トレーシングペーパーに印刷した地図資料の提示 (比較すべき資料を重ね合わせられるように)

→写真資料の提示 (地図資料と関連付けて理由を考えられるように)

事象や人々の相互関係⇒発問②



なぜ、高速道路の近くにあるのかな？



【成果】

- 社会的事象の見方・考え方を意識しながら学習に取り組めるようになった。
- 複数の地図資料を提示したことにより、多角的に考える力が育ってきた。

【課題】

- 毎時間、視点を意識した発問を行い、社会的事象の見方・考え方を働かせながら学習に取り組めるようにする。
- 多角的に考えられるような資料の提示を他の単元でも継続して行い、児童の考える力を伸ばしていく。